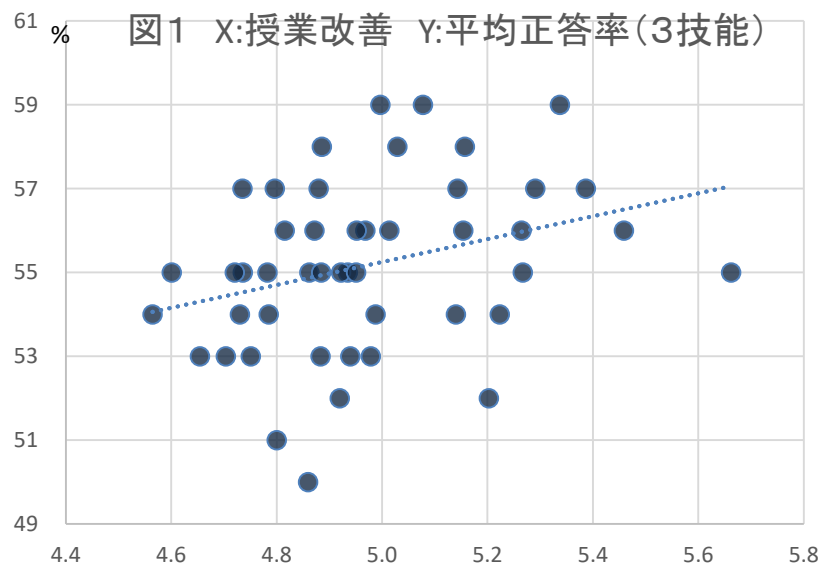


生徒の正答率と授業内・授業外で英語を使用する機会との関係

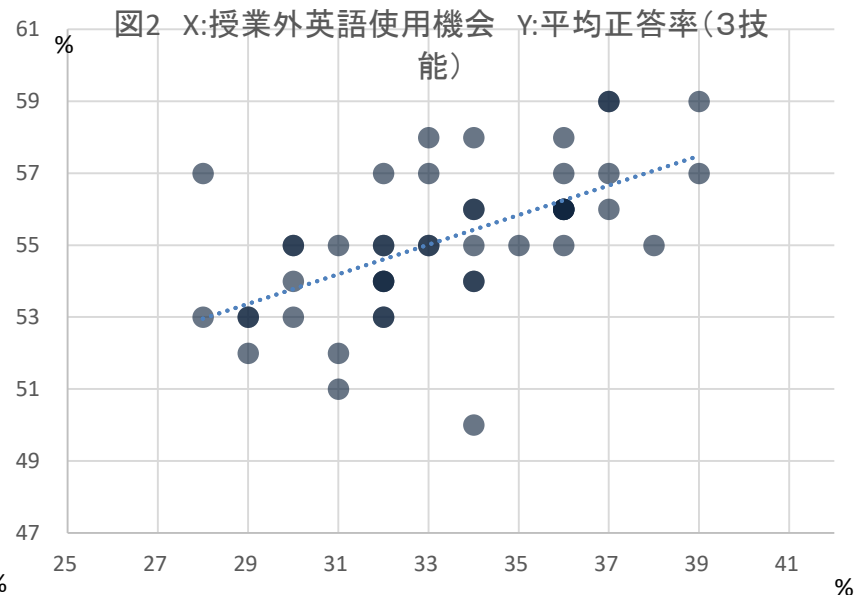
- 英語の授業改善（4技能の言語活動を行っている割合等）の進んでいる都道府県ほど、平均正答率が高い。
- 授業以外で英語を使用する機会が多い（授業外のALTなどとの交流、自主的な学習、習い事等）都道府県ほど、平均正答率が高い傾向も見られる。

→授業の内外で、英語を使用する機会を増やすことが英語力向上に繋がっている

■言語活動の実施などの「授業改善」※1と正答率※2



■授業外の英語使用機会※3と生徒の正答率



※1 学校質問紙50から58(英語に関する補充的な指導、発展的な指導、英語を使って聞く・読む・話す・書くの言語活動及び技能統合的な言語活動の実施)の回答状況について、平均が5.0となるよう標準化したもの

※2 正答率は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の各設問の正答率の平均。「話すこと」の正答率は含まない。

※3 授業以外の英語使用機会については、「地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通う」などを例示している。このほか、学習塾での英語学習、授業以外(放課後や休み時間、部活動、学校行事など)におけるALT等との交流なども含めて回答している可能性があるが、地域によってさまざまな要素が関係しているものと思われる。

(平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査より)